

# 多様な価値観を踏まえ、社会参画の在り方について考える力が育つ社会科学習

## — キャリア教育との関連に着目して —

名古屋市立若葉中学校教諭 稲垣芳章

### I 研究のねらい

労働に関する課題として、ワーク・ライフ・バランスがある。「子育てをしている人」は、朝早くや夜遅くの勤務が難しい。「障がいがある人」は、通勤ラッシュ時に移動が困難である。「たくさん働きたいと思っている人」は、勤務時間の制限がある。「雇用主」は、人手不足と生産性を向上させるという両立が難しいということが分かった。

そこで、私は、ライフスタイルや健康状態（身体状況）に合わせて、労働時間やどの時間帯にどこで働くかを自ら選択することができる社会を提案する。

「子育てをしている人」「障がいがある人」は、時間や場所を選択することができ、働きやすい。「たくさん働きたいと思っている人」は、好きなだけ働け、「雇用主」も人手不足を解消することができる。労働時間の有効活用という点で効率的であり、どの立場にとってもメリットがあるため、公正であると考えます。

これは、第3学年単元「生産と労働」において、社会に見られる課題の一つである、ワーク・ライフ・バランスの実現について、多様な価値観を踏まえ、社会参画の在り方について考えることができた生徒の記述である。筑波大学附属小学校校長の佐々木昭弘氏は、正解のない「問い」の答えを見付けられるようにするためには、「多様な価値観」があることを学ぶことが大切となると述べている。この「多様な価値観」とは、一人一人が物事を評価したり判断したりする際の考えの基準となるものであるが、本研究では一人一人の考えだけではなく、それぞれの立場における考えも含んで使用していく。

中学校学習指導要領解説社会編では、現代社会を捉える枠組みとして、「対立と合意」「効率と公正」などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を行うことが示されている。加えて、高等学校学習指導要領解説公民編の公共の目標には、「現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う」ことが示されている。そのため、中学校と高等学校の学びの連続性からも、社会に見られる課題への対応策を考える際に、効率と公正の観点をを用いることは重要であると言える。

しかし、これまでの実践を振り返ると、社会に見られる課題の対応策を提案する際に、多様な価値観を踏まえることができない生徒の姿や、効率と公正の観点から考えていない生徒の姿が見られた。これは、多様な価値観とその背景を結び付けることができる手立てや、お金や時間といった「効率」や手続きや機会の均等、誰も不当に扱わないといった「公正」を意識して考えることができるような手立てが不足していたことが要因だと考える。そこで、これまでの実践を改善するための手立てを講じ、多様な価値観を踏まえ、社会に見られる課題への対応策を、効率と公正の観点から考えることを通して、社会参画の在り方について考えることができる生徒を育成したいと考えた。

また、本研究を進める上で、キャリア教育の「基礎的・汎用的能力」の中から「人間関係形成・社会形成能力」との関連にも着目した。「人間関係形成・社会形成能力」とは、「多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聞いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力」のことである。本研究で目指す生徒の姿を実現することは、キャリア教育の充実にも寄与することができると考えた。

## II 研究の方法

1 研究の対象 名古屋市立若葉中学校 第3学年 33人

### 2 基本的な考え

主題に迫るために、まず、社会に見られる課題を提示し、課題と関連がある複数の立場を設定する。次に、社会に見られる課題と関わり、立場ごとに形成される主な価値観の背景を資料から読み取る。そして、各自が考えた社会に見られる課題への対応策について、効率と公正

段階	主な学習活動
課題を把握する	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会に見られる課題を提示し、対応策を考える学習課題をつくる。</li> <li>学習課題と関連がある複数の立場を設定し、資料から価値観の背景を読み取る。</li> <li>仲間と読み取った価値観の背景について話し合う。</li> </ul>
対応策を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の立場の価値観を踏まえた対応策を考える。</li> </ul>
対応策を見直して評価する	<ul style="list-style-type: none"> <li>対応策を効率と公正の観点から見直す。</li> <li>仲間の意見、効率と公正の観点を踏まえて、最終的な対応策をまとめる。</li> </ul>

の観点から評価したり、仲間と意見交換をしたりして見直す。これらによって、多様な価値観を踏まえた対応策を考えること、すなわち、社会参画の在り方について考えることができるようになる。そこで、「課題を把握する」段階、「対応策を考える」段階、「対応策を見直して評価する」段階という三段階の学習過程を設定する【資料1】。

#### 【資料1 学習過程】

#### (1) 「背景分析シート」の活用

まず、「課題を把握する」段階では、社会に見られる課題と関連がある複数の立場を設定する。次に、資料を読み取り、価値観とその背景を結び付けながら分かったことを「背景分析シート」に記述する【資料2】。そして、課題と関連がある複数の立場を意識した分析となるように、「背景分析シート」の記述を比較したり、関連付けたりする話し合いを行う。このような活動を行うことで、社会に見られる課題への対応策を考える上で、多様な価値観を踏まえることの必要性に気付くことができる。と考えた。

**【背景分析シート】** **学習課題の基となる経緯を考える**

選挙権獲得までの経緯を歴史学習から振り返ろう!!

昔は、国民全員の意思を政治に反映できなかった過去がある。国民全員が意思を示し、その意思に基づいて国や地方の政治を進めていく上で、とても重要である。

（各世代で、背景分析しよう）

<p>0 10~20代</p> <p><b>現状を把握しよう</b> 選挙に関する情報の入手は、インターネットが多い。</p> <p><b>背景を分析しよう</b> 投票所まで行くという煩わしさが投票率を下けている。</p>	<p>0 50~60代</p> <p><b>現状を把握しよう</b> 仕事の関係で投票に行けない人もいた。</p> <p><b>背景を分析しよう</b> 経営者・役員・管理職に就いている世代であり、忙しい。</p>
<p>0 30~40代</p> <p><b>現状を把握しよう</b> 政治についてあまり情報を得ることができず、情報を主体的に得ることが難しい。</p> <p><b>背景を分析しよう</b> 子育てや仕事に追われ、自分が生活している世帯であり、収入が気になるから。</p>	<p>0 70代以降</p> <p><b>現状を把握しよう</b> 「年金」「医療・介護」の割合がどの世代よりも高い。</p> <p><b>背景を分析しよう</b> 自分が生活している世帯であり、収入が気になるから。</p>

**各立場を分析し、比較する**

**本時のまとめ**

30代より前の世代は政治に関心がなかったり、インターネットを含むSNSに興味があったりするようだった。30~40代は、子育て世代であり、仕事の忙しさを抱える世代でもあるので、忙しい中投票に行くことが難しいことが分かった。

50~60代は、会社で役員を担うことがあり、忙しいため、投票に行くのが難しいことが分かった。また、70代以降は、自分の将来における生活を豊かにしていくために政治に対する関心が高いことが分かった。

**全ての立場を踏まえた分析**

0 **日本全国での投票率はなぜそうなる??**

30代より前の世代は政治に関心がなかったり、インターネットを含むSNSに興味があったりするようだった。30~60代は会社において重要な役割を担っており、仕事で忙しくて投票に行くことが難しいことが分かった。70代以降は投票しようとする意欲は他の世代よりはるかにあるが、体調に左右されることがあることが分かった。

#### 【資料2 背景分析シート】

#### (2) 「立場・効率と公正確認シート」の活用

「対応策を考える」段階では、「背景分析シート」を基に、社会に見られる課題への対応策を考える。

「対応策を見直して評価する」段階では、まず、「立場・効率と公正確認シート」を活用し、自分が考えた対応策を効率と公正の観点から見直し、多様な価値観を踏まえているかを確認する【資料3】。次に、「立場・効率と公正確認シート」で、自分が考えた対応策の中に課題と関連がある複数の立場が含まれているかを整理して確認したり、対応策について話し合ったりする。その際に評価欄を活用して、立場ごとにその対応策は「効率と言えるのか」「公正と言えるのか」を評価する活動を取り入れる。最後に、最終的な対応策をこれまでの活動を踏まえてまとめる。このような活動を行うことで、多様な価値観を踏まえた対応策を考える際には、効率と公正の観点を用いることが有効であることに気付き、社会参画の在り方を考える力を養うことにつながると考えた。

**対応策を考える**

あなた考える対応策をまとめよう  
(配慮したことが分かるように色分けをした下線を引こう)

インターネットを利用し、選挙期間中は24時間投票を行うことができるようにしよう。そうすることで、情報教育を受けてきている10代や20代は気軽に利用できるし、30~60代も子育ての合間や仕事後に家で投票できる。また、70代以降も体調を気にすることなく、投票することができる。

平等選挙をどのように保証するのか、70代以降にとってインターネット利用は手軽かどうか。

	10~20代の目録に立った文書	30~40代の目録に立った文書	50~60代の目録に立った文書	70代以降の目録に立った文書
情報教育を行っている。	子育てで忙しいという問題を解決できる。	仕事で忙しいという問題を解決できる。	体調を気にすることなく、投票できる。	

**効率チェック (各世代に対する対応策は効率的か??) @・○・△・×で評価しよう!!**

項目	10~20代	30~40代	50~60代	70代以降
効率	○	○	△	△
公正	△	△	△	△

**【仲間の意見を聞いた上で、最終的な対応策を記す】** **立場ごとに効率と公正の評価**

インターネット利用は、平等選挙の観点で実施が難しいのではないかと気付かされた。また、過疎地域やネット環境の整備ができていない場合も考えられるので、投票所の巡回をするというのではないかと。

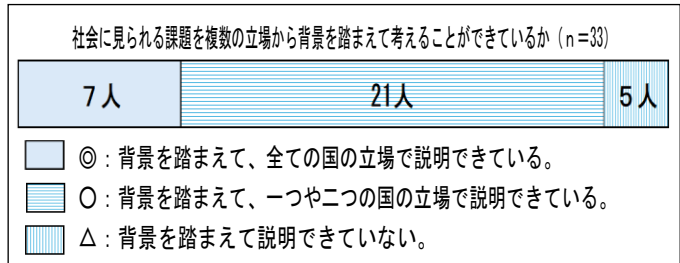
#### 【資料3 立場・効率と公正確認シート】

### Ⅲ 生徒の実態

- 1 研究の対象 令和7年6月9日
- 2 調査方法 質問紙と記述分析
- 3 調査対象 名古屋市立若葉中学校 第3学年 33人
- 4 調査の結果と考察

#### (1) 社会に見られる課題を複数の立場から背景を踏まえて考えることができるか（調査1）

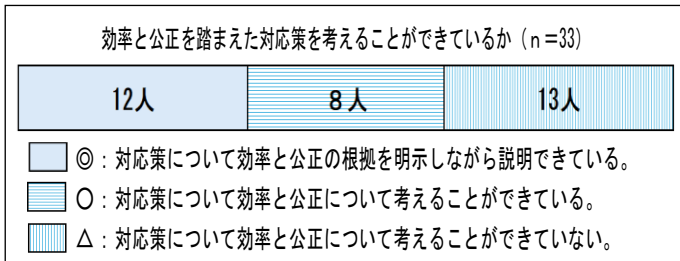
質問紙を用いて、「世界恐慌を乗り越えるために行われた『ニューディール政策』『ブロック経済』『ファシズム』について、当時の世界情勢や各国の状況などの背景を踏まえて、なぜその政策を採用したのかを説明できますか」と質問した【資料4】。当時の世界情勢や各国の状況などの背景を踏まえて、その政策を採用したことについて、全ての国の立場で説明できた生徒は33人中7人いた。一方で、「アメリカは、ニューディール政策でダム造りをしたことで景気の回復ができた」「イギリスやフランスは、ブロック経済で自国の植民地を使って景気を回復させた」など、背景を踏まえた立場の説明が一つや二つの立場であったり、政策内容の説明に終始したりした生徒は33人中26人いた。このような実態から、生徒は世界恐慌に対しての政策内容は理解していても、なぜそのような政策を実行したのかという背景までは理解できていないことが分かった。そこで、本研究では、社会に見られる課題への対応策を考える上で、価値観とその背景を結び付け、課題に関連がある全ての立場を意識した分析をする活動を取り入れていく。



【資料4 多様な価値観を理解できているかについての認識調査】

#### (2) 効率と公正を踏まえた対応策を考えることができるか（調査2）

単元「現代社会の見方や考え方」において、教科書に掲載されている課題である、「三つの部活動の体育館割り」で扱われている体育館の割り振りで対立しているという課題を解決するための対応策を考えさせた。結果を分析したところ、33人中13人が効率と公正を盛り込んだ対応策を記述することができなかった【資料5】。このような実態から、効率と公正を踏まえた対応策を考えることができる手立てが必要であると考えた。そこで本研究では、最終的な対応策を作成する前に、それぞれの立場ごとに効率と公正の観点を意識して記述することができるかを確認する「立場・効率と公正確認シート」を用いることで、効率と公正を踏まえた対応策を考えることができるようにする。



【資料5 効率と公正を踏まえた対応策を考えることができるかの調査】

#### 5 観察する生徒について

実態調査の結果を受けて、本研究で観察する生徒を3人抽出した。結果は以下に示すとおりである。

生徒	調査	評価	生徒の実態
A	1	○	ニューディール政策を行った国のみ背景を踏まえた立場の説明ができている。
	2	○	効率と公正について考えることができるが、効率の根拠を明示して説明できていない。
B	1	○	ニューディール政策とブロック経済を行った国で背景を踏まえた立場の説明ができている。
	2	△	公正のみ根拠を明示して対応策を考えることができたが、効率については考えることができていない。
C	1	△	政策内容の説明に終始しており、背景を踏まえた説明ができていない。
	2	△	曜日でのローテーションを示したのみで、効率と公正については考えることができていない。

## IV 第1次授業研究（6月）

### 1 単元 現代の民主政治

### 2 目標

選挙制度や政党政治、マスメディアや世論が果たす役割について調べ、民主主義の仕組みやその実現に向けての取組について理解できるようにする。また、絶対王政の時代から選挙権を獲得した後の社会の様子について相違点を調べたり、時代の経過に伴う投票率の推移を比較したりすることで、民主主義の大切さや国民主権の意義について捉えることができる。そして、それらを基に、現在の選挙制度に見られる課題を提示し、その対応策について仲間の意見を踏まえ、今後の選挙に自分がどのように関わっていくかについて考え、適切に表現することができるようにする。

### 3 検証項目

- (1) 「課題を把握する」段階において、「背景分析シート」で、立場ごとに異なる価値観とその背景を結び付けて考えることは、多様な価値観があることを理解する上で有効か、記述内容からつかむ。
- (2) 「対応策を見直して評価する」段階において、「立場・効率と公正確認シート」で、立場ごとに効率と公正の観点から評価することは、多様な価値観やその背景を踏まえた対応策を考える上で有効か、記述内容からつかむ。

### 4 実践の概要（7時間完了）

段階	主な学習活動
課題を把握する	第1時 日本の選挙制度や普通選挙制度を獲得した経緯を確認したり、投票率が低くなっていることを資料から読み取ったりした上で、学習課題をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">学習課題：投票率を上げるための対応策を提案しよう。</div>
	第2時 それぞれ立場における投票率についての現状やその背景について調べる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;">立場：10～20代      30～40代      50～60代      70代以降</div>
	第3～4時 調べたことを共有し、「背景分析シート」にまとめ、発表する。 <span style="float: right;">【検証場面1】</span>
対応策を考える	第5時 投票率を上げるための方法について考え、対応策を記述する。
対応策を見直して評価する	第6時 「立場・効率と公正確認シート」を用いて、自分の考えた対応策について、複数の立場における価値観を考慮しているかを評価する。その後、仲間と意見交換し、再度、対応策を見直す。 第7時 仲間の意見を踏まえて最終意見とし、多様な価値観やその背景を踏まえた投票率を上げるための最終的な対応策をまとめる。 <span style="float: right;">【検証場面2】</span> 学級全体で自分がまとめた最終的な対応策を提案し、全体で意見を共有する。

### 5 第1次授業研究の様子と考察

#### (1) 検証場面1（第3～4時）

第3～4時では、前時までに取り出した投票率となる背景を分析する活動を行うことで、多様な価値観があることを捉えた。第3時では10～20代と30～40代についての分析を行い、第4時では50～60代と70代以降についての分析をそれぞれ行った。

○ 70代以降

**現状を把握しよう**

- 年金で生活し、医療機関を利用する割合が高い。
- 70代が最も投票率が高い。
- 投票所に行くのが困難と感じている。

投票所についての記述

**背景を分析しよう**

- 今の生活様式の維持や向上に期待しているから政治に関心がある。
- 投票の大切さを戦後の社会から実感している。
- 体調が優れないときも多いことに加え、投票会場までの距離が離れていて行けない。

【資料6 生徒Bの「背景分析シート」の抜粋】

生徒Bが記述した「背景分析シート」の70代以降に関する記述を見ると、資料から「年金で生活し、医療機関を利用する割合が高い」という現状を背景として読み取り、「老後の生活を気に掛けていて、生活様式の維持や向上に期待しているから政治に関心がある」という価値観が形成されると分析した【資料6】。加えて、80代で投票率が低下する理由を「投票所に行くのが困難」という現状を背景として、「体調が優れないときがある」や「投票所までの距離が離れていて行けない」と価値観を分析した。その後、日本全体での投票率の現状をまとめた際には、立場ごとで異なる理由を記述することができ、

全ての立場で価値観を踏まえた記述をすることができた【資料7】。

また、生徒Cは資料からそれぞれの立場の現状を読み取り、その背景から価値観を分析することができた。しかし、日本全体での投票率の現状をまとめる際には、それぞれの立場における現状把握や自分と仲間が分析した内容を書き写すことに終始してしまっていた。そのため、異なる立場における価値観を踏まえた記述を十分に行うことができなかった【資料8】。

○ 日本全国での投票率はなぜそうなる？ ← 全ての立場（価値観）を記述している

- ・ 10～20代は、政治について自ら知ろうとする機会が減った。また、就職したばかりで時間に余裕がなく、投票所までの距離が遠いと行く気になれない。
- ・ 30～40代では子育て世代であり、選挙に行く時間があまり確保できない。
- ・ 50～60代は、これまでの生活経験から投票しても変わらないと諦めている。
- ・ 70代以降は、体調が優れないことや投票会場までの距離が遠く、行きづらい。これらのことから全体の投票率は低下していると考えられる。

【資料7 生徒Bの「背景分析シート」のまとめ】

○ 日本全国での投票率はなぜそうなる？ ← 現状把握に記載したものを写したのみ

- ・ 10～20代は政治にあまり関心がなく、投票に慣れていないので、投票をする人が少なくなる。
- ・ 30～40代は子どもができて、子育てする人が増えるので、仕事と子育ての両立が大変で、投票する時間がない。
- ・ 全体的に、政治は良い方向に向かってほしいけど、自分一人の投票はあまり意味がないと感じる人が多い。
- ・ 政治に興味がなく、応援している政党もないので、あまり分からない者は、投票しない方が良いと感じる人が多くなるため。

【資料8 生徒Cの「背景分析シート」のまとめ】

(2) 検証場面1の結果と考察

A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
「背景分析シート」を基にして、全ての立場で価値観やその背景が異なることを理解し、記述することができている。	「背景分析シート」を基にして、二つ以上の立場で価値観やその背景が異なることを理解し、記述することができている。	異なる立場の価値観やその背景に気付くことや記述することができていない。
27人		6人 (生徒C)
10人 (生徒B)	17人 (生徒A)	

立場ごとに価値観が異なることを理解し、記述できた生徒は33人中27人であった。これは、「背景分析シート」で立場ごとに、どのようなことが背景となって投票率が低くなっているのかといった分析を積み重ねたことで、立場ごとでの現状の投票率やそれに対する価値観やその背景の違いに気づき、記述できるようになったためだと考える。一方で、異なる価値観やその背景に気付くことや記述することができなかった生徒は33人中6人であった。この6人の「背景分析シート」を分析すると、立場ごとで現状の投票率については把握できていたが、価値観やその背景を結び付けて分析する際に、提示した資料を読み取り、価値観とその背景を適切に結び付けることができていなかった。

(3) 検証場面2 (第7時)

第7時では、前時までに行った効率と公正の観点を踏まえることができていたかの自己評価と仲間からの意見を踏まえ、最終的な対応策としてまとめた。

生徒Bの最終的な対応策は、前時に考えた内容から大きな変化は見られなかったが、教師とのやり取りやその結論に至った理由を記述した文章から立場ごとの現状に対する背景や、それを踏まえた価値観を意識した内容を読み取ることができた【資料9】。しかし、効率と公正に関する内容については、全ての立場で多様な価値観やその背景から効率と公正を意識した対応策を記述することができなかった。最終的な対応策として、「投票率を上げるためには投票所を増やせばよい」という結論に至った生徒Bだが、70代以降は、「選挙に行きたいと思っているので、近くに投票所があると車椅子を使って生活している人でも手軽に行きやすい」と効率の観点で記述することができた。しかし、10～20代の効率と公正の観点が「近くに投票所があると政治に興味はわく」と記述しており、理由が不明確であった。

投票率を上げるためには、投票所を増やせばよいと思う。なぜなら、投票所までの距離が5分未満の人と20分以上の人では、投票率が30%ほど違うので、20分以上かかる人を減らせばよいと思ったからである。10～20代に多い、「選挙にあまり関心がない」人でも近くに投票所があると政治に興味はわく。だから図書館や職場、老人ホームに設置するとよい。これにより、投票立会人を大量に雇わないといけなくなり、人件費が大量に掛かるが、投票率を上げるためには仕方がない。それでも、30～60代の仕事が忙しい世代でも投票しやすくなり、70代以降の方でも、選挙に行きたいと思っているので、近くに投票所があると手軽に車椅子を使って生活している人でも行きやすいため、全体の投票率が上がると考える。

下線部は効率や公正の視点

【資料9 生徒Bが考えた最終的な対応策】

また、生徒Cは、立場における価値観や効率と公正を意識した記述を読み取ることができず、最終的な対応策として、「スマートフォン投票にすることで、会場のコストパフォーマンスが良くなる」と記述し、これまでの学習過程を反映することができなかった【資料10】。

スマートフォン投票をするには、個人情報が必要とし、政府から送られたコードを入力しないと投票できない仕組みとする。また、投票所をなくすことで、人件費のコストが削減でき、会場のコストパフォーマンスが良くなる。

【資料10 生徒Cが考えた最終的な対応策】

(4) 検証場面2の結果と考察

A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
「立場・効率と公正シート」を基にして、全ての立場における価値観やその背景から効率と公正を意識した対応策を記述することができる。	「立場・効率と公正シート」を基にして、立場における価値観やその背景から効率と公正を意識した対応策を記述することができる。	立場における価値観やその背景から効率と公正を意識した対応策を記述することができない。
6人	19人	14人
	13人 (生徒A) (生徒B)	(生徒C)

効率と公正を意識して記述できた生徒は33人中19人であった。効率と公正を意識して記述できた生徒は、効率または公正と考えた理由を評価する欄にそれぞれの立場ごとに自ら追記しており、最終的な対応策への記述に生かしていた。一方で、効率と公正を意識して書くことができなかった生徒は33人中14人であった。14人の内容を分析すると、それぞれの立場で効率と公正の評価を行うことはできていたが、その理由を追記していなかったため、評価した理由が不明確となり、最終的な対応策に効率と公正の観点を反映させることができていなかった。

## V 長期研修で学んだこと

### 1 筑波大学附属小学校校長 佐々木 昭弘 氏

佐々木氏からは、「自己矛盾」という言葉をヒントに、社会参画の在り方について考えさせるための取組や学習課題に対する対応策のまとめ方について御指導いただいた。生徒が社会全体の課題を解決したと思うことや追究意欲を持続させるには、自分の置かれている立場や現状で考えが変わってしまう事例を扱うことで、生徒は複数の立場を理解し、その対応策を考えながら学習課題に取り組むことができるようになると教えていただいた。生徒に対して、自己矛盾が発生するような学習課題の提示や発問を意識することで、複数の立場を踏まえた対応策を生徒が考えることができるようにしていく。

### 2 福井大学教授 橋本 康弘 氏

橋本氏からは、第1次授業研究の内容から丁寧な資料提示について御指導いただいた。生徒が多様な価値観の存在に気付く取組として、立場ごとに分析させることは有効だが、生徒が思考をつなげやすくするために資料の精選を心掛ける必要があると教えていただいた。また、学習課題の対応策を効率と公正の両方の枠組みで評価させたが、高等学校でもこの考え方を生かすので、継続すると良いと教えていただいた。第2次授業研究では、見通しをもった資料収集を行っていく。また、今後も複数の立場における価値観を理解し、対応策に反映することができるように効率と公正を意識させ、取り組んでいく。

### 3 法政大学教授 児美川 孝一郎 氏

児美川氏からは、キャリア教育には「狭義のキャリア教育」と「広義のキャリア教育」があることを御指導いただいた。教科学習は広義のキャリア教育で捉え、学習場面では、生徒はキャリア教育に取り組んでいるという自覚はもたなくてもよく、他の場面でこれまでに習得したそれぞれの見方・考え方を活用することができればよいと教えていただいた。教科における資質や能力を身に付けさせた先に、キャリア教育が位置付ける基礎的・汎用的能力を獲得できるということを意識していく。

このほか、筑波大学教授 唐木清志氏、立命館宇治中学校・高等学校教諭 杉浦真理氏にも御指導いただいた。

## VI 第2次授業研究に向けての改善点

### 1 検証項目1について

「課題を把握する」段階において、「背景分析シート」にそれぞれの立場ごとで社会に見られる課題についてまとめる際に、各立場における価値観とその背景を適切に結び付けることができるようにするために、どの資料を用いたのかを記述させる。

### 2 検証項目2について

「対応策を見直して評価する」段階において、自分が考えた対応策のどの部分に効率と公正の観点が反映されているかを評価することに加え、その評価した理由を明記させることで、最終的な対応策に反映させる。そして、その最終的な対応策に多様な価値観やその背景を踏まえた内容を記述することができるようにする。

## VII 第2次授業研究（9～10月）

### 1 単元 個人の尊重と日本国憲法

### 2 目標

日本国憲法が認めている人権の理念や捉え方について、人権獲得の経緯や訴訟事例等から「個人の尊重」「法の下での平等」という考え方に基づいていることを理解することができるようにする。また、人権に関する事例を扱うことで、それぞれの立場における価値観の相違点を調べたり、それぞれが主張している根拠を理解したりすることで、複数の立場の存在やその価値観に気付くことができるようにする。そして、現在の制度における外国人への参政権についての在り方を示し、その対応策について仲間の意見を踏まえながら考えるとともに、今後の生活で気を付けていきたいことや共生社会を実現させるための取組や社会参画の在り方について考え、適切に表現できるようにする。

### 3 検証項目

- (1) 「課題を把握する」段階において、「背景分析シート」にそれぞれの立場における価値観をまとめるに当たり、各立場における価値観と背景を適切に結び付けることができるように、どの資料を用いたのかを記述させることは、多様な価値観があることを捉える上で有効か、記述内容からつかむ。
- (2) 「対応策を見直して評価する」段階において、自分が考えた対応策のどの部分に効率と公正の観点が反映されているかを評価することやその理由を明記させることは、多様な価値観やその背景を踏まえた最終的な対応策を考える上で有効か、記述内容からつかむ。

### 4 実践の概要（7時間完了）

段階	主な学習活動
課題を把握する	第1時 憲法上の人権を理解し、その保障は日本国民を対象としていることを条文や資料から確認する。その後、日本にいる外国人が過去最多となった事実から学習課題をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">学習課題：(外国人参政権を基に) より良い外国人との共生についての対応策を提案しよう。</div>
	第2時 それぞれの立場における外国人が日本にいる理由や与えられている権利について調べる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">立場：日本人      帰化した外国人      外国人労働者・留学生      永住外国人</div>
	第3～4時 調べたことを共有し、「背景分析シート」にまとめ、発表する。 <span style="float: right;">【検証場面1】</span>
対応策を 考える	第5時 外国人に選挙権を与えるべきかどうかについての対応策を記述する。
対応策を 見直して評価する	第6時 「立場・効率と公正確認シート」を用いて、自分の考えた対応策について、複数の立場における価値観を考慮しているかを評価する。その後、仲間と意見交換し、再度、対応策を見直す。 第7時 仲間の意見を踏まえて最終意見として、多様な価値観やその背景を踏まえた外国人参政権についての最終的な対応策をまとめる。 <span style="float: right;">【検証場面2】</span> 学級全体で自分がまとめた最終的な対応策を提案し、全体で意見を共有する。

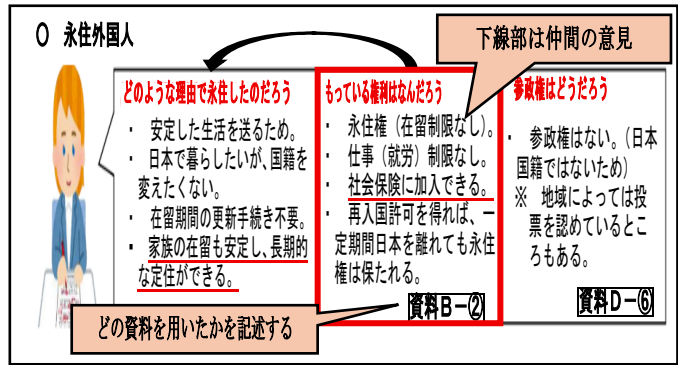
## 5 実践の概要

### (1) 検証場面 1 の様子 (第 3～4 時)

第 3～4 時では、前時までに取り取ったそれぞれの立場の外国人がもっている権利や参政権を獲得する条件、外国人がなぜ帰化したのかや国籍を変えずに永住しているのかといった立場を選択しているのかを分析する活動を行い、各立場の外国人がもつ価値観やその背景を明確にした。第 1 次授業研究で明らかとなった改善点も含めて、それぞれの外国人がなぜその立場を選択したのかという価値観やその背景を記述することに加え、どの資料を用いて読み取ったのかをシートに記述させることで、読み取った資料やそこに記されている内容を把握することができるようにした

【資料 11】。生徒 A は、全ての立場で、どの資料から読み取ったのかを明記したことで、分析する際には、それぞれの外国人における立場で、なぜその立場を選択しているのかという価値観やその背景を記述することができた

【資料 12】。生徒 C も同じ活動をそれぞれの立場で行ったが、どの資料から読み取ったのかを明記することが不十分な立場もあった。しかし、仲間と意見交換したことで、多様な価値観やその背景があることを捉えることができた。その後、外国人参政権に関する考え方と課題を記述させた際には、「外国人労働者・留学生」に関する記述をすることができなかった【資料 13】。



【資料 11 生徒 A の「背景分析シート」の抜粋】

【日本人】  
「日本」の政治なので、国民主権。外国人参政権に反対の声が多い。  
【帰化した外国人】  
本来の国籍は違うが、同じ日本人として社会に貢献したい。  
【外国人労働者・留学生】  
目的は、日本で「働く」だから、「政治」に関わりはあまりない。  
【永住外国人】  
税を払って社会貢献しているから選挙権が欲しいが、自ら永住を選択している。

【資料 12 生徒 A の背景分析シートのまとめ】

5 年間日本に住むと帰化できる(日本国籍になり、参政権を与えられる)と 10 年間日本に住むと永住外国人になる(国籍は元いた国のままで、参政権は与えられない)を比べると、日本に住む期間は関係なく、日本国籍にするだけで、参政権が獲得できる。日本人は、元から日本人で参政権はある。国民主権に基づく考え方である。

【資料 13 生徒 C の背景分析シートのまとめ】

### (2) 検証場面 1 の結果と考察

A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
「背景分析シート」を基にして、全ての立場で価値観やその背景が異なることを理解し、記述することができている。	「背景分析シート」を基にして、二つ以上の立場で価値観やその背景が異なることを理解し、記述することができている。	異なる立場の価値観やその背景に気付くことや記述することができていない。
31 人		2 人
10 人 (生徒 A・B)	21 人 (生徒 C)	

3 人の抽出生徒のように立場ごとに価値観やその背景が異なることを理解し、それらを踏まえて記述することができた生徒は 33 人中 31 人であった。生徒 A は、どの資料を用いたかをシート上に明記したことで、各立場における価値観と背景を適切に結び付けることができるようになり、それらを踏まえた記述をすることができた。また、生徒 C は、それぞれの外国人がなぜその立場を選択したのかといったことを読み取る際に、どの資料を用いたかを明記しなかった箇所があった。生徒 C の学習の様子を振り返ると、シートを埋めることが最優先となっており、どの資料を用いたかを明記することが後回しになっていたため、まとめの記述の際に、記述の理由となる資料を把握することができなかったと考えられる。しかし、第 1 次授業研究時と比べて、二つ以上の立場で価値観やその背景が異なることを理解できるようになった。このことから、「背景分析シート」において、価値観とその背景を適切に結び付けるために、どの資料を用いたのかを記述させることは、多様な価値観があることを捉える上で有効であった。

(3) 検証場面 2 (第 7 時)

第 7 時では、前時までに行った効率と公正の観点を踏まえることができているかの自己評価と仲間との意見交換を踏まえて最終的な対応策をまとめた。それぞれの外国人の価値観やその背景ごとに効率と公正の観点で、自分が考えた対応策について理由を含めた評価を行った。また、その評価した対応策について仲間と意見交換を行うことで、自分が評価した内容で悩んでいることや自分では効率と公正の観点を見いだすことができなかつた部分について、意見を求めることができるようにした。そうすることで、全ての立場における価値観やその背景を効率と公正の観点で評価することができるようにした。生徒 A は、全ての外国人を立場ごとに効率と公正の観点から、なぜそのようにしたのかといったこと理由を踏まえた評価を行うことができている【資料 14】。そして、その評価や仲間との意見交換を基にして、最終的な対応策をまとめた【資料 15】。生徒 A は、国民主権の考え方を大切にしつつ、外国人が日本でより良い生活を送るための方法を見いだそうとしており、多様な価値観やその背景を踏まえた対応策を考えることができている。また、生徒 C の最終的な対応策は、日本人の立場における価値観やその背景についての記述は見られなかったが、他の立場の価値観やその背景を踏まえて記述することができた【資料 16】。

項目	日本人の立場	帰化した外国人の立場	外国人労働者・留学生の立場	永住外国人の立場
効率	○	○	○	△
	・ 今までとやり方が変化していないので、日本人にとっては時間や手間が省かれる。	・ 参政権を与えることによって何か手続きがある訳ではないので、時間や手間が省かれる。	・ 政治に関わるために日本に来たという人は少ないので、変に権利を与えても時間や手間が掛かり、効率的とは言いがたい。	・ 政治に関心がないので、あえて永住を選んでいる人もいる。その場合は参政権を与えたら余計に手間がかかる。
公正	○	○	△	△
	・ 全員参政権が与えられ、機会が平等である。 ・ 国民の意見を第一とするので、日本人の意見が通りやすい。	・ 参政権が欲しいという理由で帰化した外国人もいるから、そういった人には公正である。 ※ 日本国籍を取得するために頑張ったから同権利を与える。	・ 日本企業から呼ばれて来た人にとっては、自分たちの意見を聞かないことに不満が出るのではないかと。	・ 日本に興味があっても、母国の国籍を大切にしている人もいる。 ・ 税金を払っているのに、意見を言う場がないのは不公平である。

【資料 14 生徒 A がまとめた効率と公正の評価の一部】

<p><b>参政権を与えるのは、日本国籍をもっている日本人と帰化した外国人のみにするが、留学生、永住外国人といった外国人のために意見を言う場を設ける。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ あくまで、「日本」の政治なので国民の意見を第一とし、尊重する。→外国人が参政権をもつことに対して日本人は反対の意見が多いので、この意見も尊重した。</li> <li>・ 帰化した外国人は、本来の国籍は違っても国籍を変えてまで日本人となってくれていて、日本に関心があるので、日本人と同じ権利を与えるべきだと考える。</li> <li>・ 留学生は、「日本で学ぶ」という目的で来ることが多い。また、外国人労働者は、日本の実情を踏まえて来ている人もいるので、意見を聞かないのは不公平だと考える。</li> <li>・ 永住外国人は、本人の意思で永住を選択したものの、帰化した外国人よりも長く日本に住んでいる人もいいため、税金を多く払っているのに意見を聞かないのは不公平だと考える。 → 政治に直接関わらなくても意見を聞く場を設けると良いと思う。また、日本側は違う視点での意見を貴重な意見と捉え、改善していくべきだと思う。</li> </ul>
---

【資料 15 生徒 A の最終的な対応策の抜粋】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 帰化した外国人は、国籍を変えているため、参政権は与える。しかし、永住権の取得は早くしてあげるとよい。</li> <li>・ 外国人労働者は、国民ではないが、日本のために尽くしてくれているので、意見を言う場を設ける。同じ社会で働いているという貢献度からである。</li> <li>・ 永住外国人も子育てで困ることがあると思うので、意見を役所といった行政機関に言う場を設ける。外国人に優しい日本を築いていくべきである。</li> </ul>
---

【資料 16 生徒 C の最終的な対応策の抜粋】

(4) 検証場面 2 の結果と考察

A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
「立場・効率と公正シート」を基にして、全ての立場における価値観やその背景から効率と公正を意識した対応策を記述することができる。	「立場・効率と公正シート」を基にして、立場における価値観やその背景から効率と公正を意識した対応策を記述することができる。	立場における価値観やその背景から効率と公正を意識した対応策を記述することができない。
28 人		5 人
11 人 (生徒 A・B)	17 人 (生徒 C)	

3 人の抽出生徒のように現在における外国人参政権の在り方から、今後の外国人参政権をどのようにしていくべきかを効率と公正を意識して考えることができた生徒が 33 人中 28 人であった。「立場・効率と公正確認シート」へ自分の対応策に効率と公正の観点が反映されているかを確認するだけではなく、その理由も記述させたことで、効率と公正の観点が明確になったからだと考える。第 1 次授業研究時と比べて、生徒 A は全ての立場で価値観やその背景を踏まえた対応策を考え、生徒 C は立場を踏まえた対応策を記述することができるようになった。このことから効率と公正の観点をを用いたことは、多様な価値観やその背景を踏まえた対応策を考える上で有効であった。

## VIII 研究のまとめ

### 1 研究から明らかになったこと

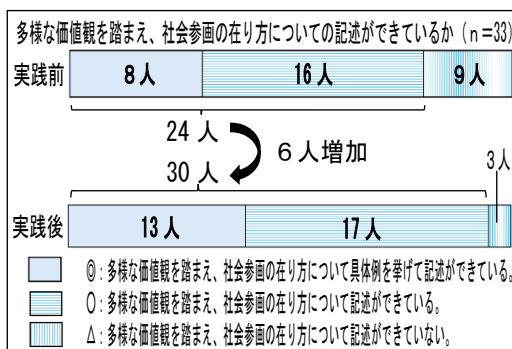
#### (1) 多様な価値観を踏まえ、社会参画の在り方について考えることのできる生徒

第2次授業研究の実践前と実践後に「共生社会を築く上で大切な考え方は何だろう」というアンケートを実施し、回答を分析すると、多様な価値観をもつ人々を受け入れ、良好な人間関係を築いていくことが大切であると記述した生徒が多く見られた【資料17】。同時に社会参画の在り方について記述させたところ、多様な価値観を踏まえて記述ができた生徒は、第2次授業研究の実践後は実践前と比べて6人増加した【資料18】。これらは、生徒の中で複数の立場の価値観やその背景を踏まえ、効率と公正の観点から対応策を考えることは、どの立場にとっても納得することができるような対応策を見いだすことができるという考えが形成されたからだと考える。

以上のことから、複数の立場において多様な価値観を踏まえ、効率と公正を意識した対応策を考えることができれば、社会参画の在り方について考える力が身に付くことができる。これらのことから、今回の実践における手立ては有効であった。

生徒A： みんな同じという考え方をなくす。  
 → 相手の立場に立って相手の気持ちや考え方を想像すること。  
 → 見た目で判断せずに、たくさんコミュニケーションをとって、一人の人として理解する。  
 生徒B： 各立場に立って物事を考え、現状で置かれている立場の人がいないか、いたとしたら時間、手間、資源を効率的に活用して、どの立場の人からも機会、手続き、結果の観点で公正と言えるように改善していくことが大切である。  
 生徒C： 多様性を認め合う。「人はみんな違って当たり前」という意識をもつ。  
 共生社会では、全ての人が安心して働き、生活できる環境をつくる。  
 → 多言語対応の使用は、外国人住民にとってうれしい。全ての人にとって暮らしやすい社会をつくることにつながる。

【資料17 抽出生徒の「共生社会を築く上で大切な考え」の一部抜粋】



【資料18 多様な価値観を踏まえた記述内容となっているかの変容】

#### (2) 実践後の生徒の様子

第2次授業研究後の単元「生産と労働」では、「誰もが働きやすい会社とは、どのような会社かを提案しよう」という学習課題を設定して学習を行った。3人の抽出生徒はともに、「立場・効率と公正確認シート」を活用することで、子育てをしている人や障がいがある人、たくさん働きたいと思っている人といった、あらゆる社員の立場から効率と公正を基に学習課題に対応していこうとする姿が見られた。また、学習後の記述を分析すると、複数の立場における多様な価値観やその背景をもつ人たちと今後の社会を築くために、自分が果たしていける役割を担うことや他者と協力していかないといけないといった社会参画の在り方について考えることができた内容が書かれていた。

### 2 今後の研究に向けて

本研究では、多様な価値観に関わる背景を分析し、複数の立場を意識した分析を行うことや、効率と公正を意識しながら社会に見られる課題への対応策を考えたとことで、多様な価値観を踏まえることの必要性に気付くことができた。これらの活動は、私が目指す生徒像に迫ることができたことに加え、キャリア教育で育成すべき「人間関係形成・社会形成能力」も養うことができたと考える。社会参画の在り方について考えたり、社会に見られる課題への対応策を考えたりする活動を通して、社会科はキャリア教育と関わり、その充実に寄与することができると思う。しかし、このような取組ができたのは、小学校段階から立場を意識した活動を実施してきたことで、生徒が成長過程で身に付けてきた力が根底にあると考える。生徒が身に付けてきた力を存分に発揮することができたり、向上させたりすることができるように、今回の実践を通して得られた成果と課題を改めて分析し、今後も多様な価値観を踏まえ、社会参画の在り方について考える力を身に付けた生徒を育成していきたい。